

季刊  
7月・8月・9月



# 博物館だより

FUKUSHIMA MUSEUM  
QUARTERLY

URL <http://www.general-museum.fks.ed.jp>

# 125

福島県立博物館



*Subdichotomoceras chisatoi*

夏の企画展

## ふくしま 5億年の自然史

平成29年7月15日(土)～9月18日(月・祝)

平成29年度夏の企画展

# ふくしま 5億年の自然史

平成29年  
7月15日(土)～9月18日(月・祝)

夏の企画展は、最新のデータにもとづいてご紹介する「ふくしまの自然の歴史」です。

この30数年の間に、福島県の地質に関する知識と理解は劇的に進展しました。例えば、「ふくしま最古の岩石」である松ヶ平変成岩類の変成年代はおよそ5億年前であることが判明しました。また、御斎所変成岩類や阿武隈花崗岩類が出来た時代も解明され、会津と中通りを広く覆う膨大な火砕流をもたらした火山活動のようすも明らかになりました。

このようにして県土が形作られてきた歴史の解明が進んだ一方、新たな化石の発見とその研究にも進展が見られました。パレオパラドキシアの発見に続いて、ジュラ紀のアンモナイトや植物、白亜紀の恐竜、新生代のさまざまな脊椎動物などの化石が相次いで見つかり、大昔の福島に生息した動植物の姿や、古環境の移り変わりなどが詳しくわかるようになってきました。さらに、微化石を使った地層の年代と古環境の研究も大きく前進しました。これらの中には、当館の学芸員が直接・間接に関わって成果を上げた研究テーマも含まれています。

そこで今回の展示では、これまでに当館で収集した豊富な自然史資料をもとに、新しく書き換えられた福島県の自然の歴史を余すところなくご紹介いたします。また、最近では自然史研究の進歩に伴い、福島県の自然史を東北、日本、さらには地球全体の自然史の中に位置づけることも出来るようになってきました。そこで、他館からの借用資料や外国産の資料を用いて、このような広い視点から見た福島県の自然史についてもご紹介いたします。

このように長い歴史をたどってきた「ふくしまの自然」ですが、その中で最も新しいできごとのひとつに、県内にも未曾有の被害をもたらした2011年の東北地方太平洋沖地震があります。この展示の最後では、地震とその被害や、県内の活火山についてもご紹介し、まさに現在、活動し続けている「ふくしまの自然」を見つめてみたいと思います。



ナウマンゾウ全身骨格複製  
(スリーエム仙台市科学館所蔵)



チンタオサウルス全身骨格複製  
(広野町教育委員会所蔵)

会場 福島県立博物館企画展示室  
観覧時間 9時30分～17時(入館は16時30分まで)  
観覧料 一般・大学生500円(20名以上の団体は400円)、高校生以下無料  
休館日 7月18日(火)・24日(月)・31日(月)、8月7日(月)・28日(月)、9月4日(月)・11日(月)



安達太良山沼ノ平火口  
(猪苗代町)



珪長質溶結凝灰岩  
(南会津町 湯ノ花層 館蔵)



アケボノアラカシ  
(只見町 布沢層 館蔵)

**展示構成**

- 1 古生代のふくしま
- 2 中生代のふくしま  
(1)三畳紀の可能性 (2)ジュラ紀のふくしま (3)白亜紀のふくしま
- 3 新生代のふくしま  
(1)古第三紀 (2)新第三紀 (3)第四紀
- 4 現在のふくしま―地震・火山・津波―
- 5 化石にさわってみよう

**関連行事**

**(1) 企画展展示解説会「化石の見方、教えます」**

日時：7月16日(日)・23日(日)、8月6日(日)・13日(日)、9月17日(日)  
 いずれも13時30分～14時30分  
 場所：福島県立博物館企画展示室  
 講師：福島県立博物館学芸員

**(2) ワークショップ**

「ふくしま最古の岩石がもらえる！―アンモナイトの名前を当てよう！―」  
 日時：7月30日(日)、8月20日(日) いずれも13時30分～15時  
 場所：福島県立博物館企画展示室  
 講師：福島県立博物館学芸員

**(3) 福島地方気象台出前講座**

「地震と津波について」  
 日時：8月10日(木) 13時30分～14時30分  
 場所：福島県立博物館講堂  
 講師：気象庁福島地方気象台地震津波防災官 大和田淳氏

**主な展示内容**

松ヶ平変成岩、御斎所・竹貫変成岩、阿武隈花崗岩類、会津花崗岩類、新第三紀火山噴出物、カルデラ火山噴出物、第四紀火山噴出物、各時代の堆積岩類、古生代サンゴ、古生代腕足類、古生代アンモナイトほか軟体動物、三葉虫、ジュラ紀アンモナイトほか軟体動物、ジュラ紀植物、白亜紀アンモナイトほか軟体動物、ヒロノリュウほか白亜紀恐竜化石、チンタオサウルス全身骨格複製、新生代植物、新生代軟体動物、パレオパラドキシア、オオクマイルカ、鱗脚類、ナウマンゾウ臼歯、ナウマンゾウ全身骨格複製、津波堆積物、活断層断面剥ぎ取り ほか

**主な資料借用先**

スリーエム仙台市科学館、埼玉県立自然の博物館、いわき市石炭化石館、広野町教育委員会ほか

春の企画展

## 自然をうつす

漆芸家・関谷浩二が挑んだ漆表現の可能性

会期平成29年4月29日(土・祝)〜6月4日(日)

会津で約60年間にわたり漆による表現に挑戦し続けた漆芸家・関谷浩二さんの作品と制作の背景に流れる思想をご紹介した本展では、ゆっくりと作品ひとつひとつをご覧になっている来場者の多いことが印象的でした。アンケートでお聞きした観覧時間は、60分、90分という方も。数年間かけて制作したのもある関谷浩二さんの珠玉の漆作品の素晴らしさがもつとも良く伝わる展示にしよう。そう考えて展示案を練った学芸員の冥利となりました。



会期初日に関谷浩二さんをお招きし企画展示室で開催したアーティストトークには100名を超える方がご参加くださいました。20代で漆の道に入ってから3人の師のことで、制作のことで、個々の作品のことなどを、ゆっくりと、当時を思い出しながら



話してくださる関谷浩二さんを、みなさんがあたたかく見守ってください。ついているような、なかやかなトークイベントとなりました。

作品をめぐるながらお聞きした制作秘話で、関谷浩二さんは「これも好きだったなあ」を連発。花もトウモロコシもソラマメも。すべて関谷浩二さんが美しいと思ひ、かわいらしいと思ひ、好きだったものたち。トウモロコシは「黄色の中にオレンジや白いのも混ぜて、同じものばかりじゃない」のが好きだったそうです。「人間も同じ。同じじゃなくていい」とのお言葉には心が震えました。

ご自身が好きだと思ったことを、漆という表現手段で形にして伝えること。すべての作品に関谷浩二さんの対象への深

い愛情があるからこそ、あの息を呑むような緻密な作品が生まれ、見る人に伝わるのでしょう。

関谷浩二さんは制作に先立ちたくさんの方の写生をされています。観察は、例えば花であれば、綺麗に咲いている時だけでなく、芽がでて、育ち、花を咲かせ、実をつけ、やがて枯れて土に帰るまでに及んだそうです。対象の存在すべてを受け止めてこそ、自然が自分の中に残るのだと仰っていました。自分の中に残った自然を抽象化して図案とし、巧みな漆の技術により表現したのが関谷浩二作品なのです。

「会津の四季の彩り、空気感ただよふ作品は素晴らしかったです。緻密な



デッサンからモダンなデザインへと変化した漆の技法と表現における「来場者がアンケートに残してください」言葉です。

展示会場には、写生帳に刻まれた関谷浩二さんの言葉もあわせて展示しました。対象と対話を続け、自然と向き合い続けた関谷浩二さんだからこそ生まれた自然観が伝わる言葉たちです。

「自然についてのメッセージがわかりやすく書かれていてとても良かったです。自然のすばらしさを改めて感じ取りました」

関谷浩二さんが自然と向き合う中で抱き続けた自然への畏敬の念。作品と関谷浩二さんの思想を伝える言葉を通して来場者みなさんにお届けすることができたようです。



平成29年4月

# 学校の博物館利用が変わる!

## 学校団体利用のリニューアルプラン登場!

福島県立博物館は、県内外の学校団体が当館を利用した学習効果をさらに高められるようなプログラムを開発しました。学校団体のニーズに応じたきめ細かい事前相談からはじめます。これまで以上に授業に役立つメニューをたくさん用意いたしました。ぜひ、遠足や修学旅行などの校外活動はもちろんのこと、日常の授業の深化・補充活動としても福島県立博物館の見学を御検討ください。多くのみなさんの御来館をお待ちしております。

目的から選ぶ

### ◆選べる3種類の利用方法

担任の先生方の校外活動の目的にあわせて、以下の3種類の利用方法が選べます。

- ①学校課題に基づく自由見学
- ②解説員の通し解説付き見学
- ③当館学校団体対応メニューを組み合わせた見学



### ◆豊富な学校団体対応メニュー

滞在時間と学習目的にあわせた9コースのラインナップメニューの中から学習活動が選べます。(HPにて紹介)

時間で選ぶ

#### 【パワーポイントによる全体解説】

- ・学校のある市町村の歴史
- ・福島県の歴史



#### 【グループで展示室探検】

- ・見学用ワークシートを使って
- ・館内オリエンテーリング形式で

その他にもいろいろな活動を組み合わせたメニューがあります。

体験する

### ◆体験学習活動も組み合わせた利用メニューの充実

#### 【主な体験学習活動メニュー】

#### 原始・古代のワザに挑戦

石器で切る、土器の文様を写す、勾玉を作る  
火おこし

#### 紙すきでハガキを作ろう

手漉き和紙づくりに挑戦

#### 昔の道具を使ってみよう

石臼や電気の無かった時代の道具を使う



#### 度量衡の統一と農民の暮らし

秤で量ったり、俵の重さを体験したりする

その他にも学校団体の御相談に応じたメニューを用意します。



### ◆事前相談から始まる充実した対応

教職経験のある学芸員が事前相談に応じ、利用プログラムを作成していきます。まずは、気軽に御連絡ください。

【学校団体利用相談窓口】

福島県立博物館学芸課学習支援班 電話 0242-28-6000

博物館代表メールアドレス general-museum@fcs.ed.jp

HP <http://www.general-museum.fcs.ed.jp/>



## ふくしま最古の

## 新種化石？

自然分野学芸員 猪瀬弘瑛

相馬地方に分布する合ノ沢層は、福島県最古である古生代デボン紀後期（今から約3億8270万年前〜3億5890万年前）の化石を産出するところで知られています。例えば、郡山市在住の横田昭彦さんは見事なレプトフロエウムというリンボクの仲間の植物化石を見つけて、県立博物館に寄贈してくださっています（常設展で展示しています）。

私は平成27年度に県立博物館に採用されました。学芸員として新しくこれから何を調べていくか考えることにな

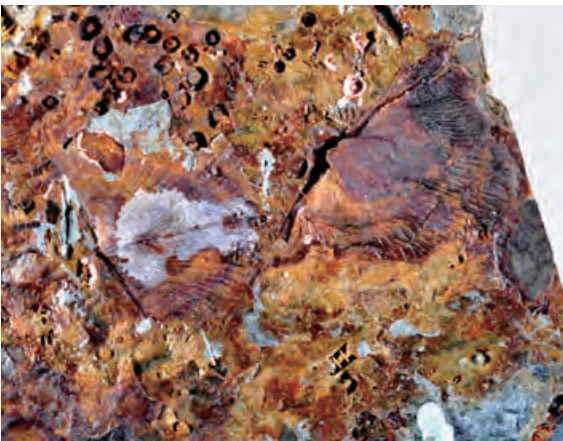
り、前述の植物化石の素晴らしさに加えて最古の化石という響きにも惹かれ、合ノ沢層を重点的に調査していくことにしました。

常設展に展示してあるような化石を求め、早朝に会津若松を出発して相馬地方の山の中を歩きます。ところがなかなか良い化石が出てきません。一日中、化石を探しまわって一つも採らずに帰る日もあります。それでもあきらめきれずにしばらく通い続けると、いくつかの化石が集まってきました。

そうして採れた化石は石の中に一部が隠れた状態になっています。そこで次にクリーニングと呼ばれる剖出作業を行います。ハンマーとタガネで慎重に掘り出していくと、化石の全体像が見えてきました。



レプトフロエウムの化石  
(横田昭彦さん寄贈：母岩幅 8 cm)



新種の可能性があるキルトスピリファー属腕足類化石  
(母岩幅 10 cm)

このうちある種類の化石が気になりました。扇を広げたような形をしていて、筋状の模様がたくさんあります。さつそく、名前を調べ始めました。まず腕足類の化石であることは、すぐに分かりました。腕足類とは古生代に繁栄した（現在でもわずかに生息しています）動物で、二枚貝に似た殻をもっています。二枚貝は体の左右に殻を持つているのに対して、腕足類は体の前後に殻を持つているのが特徴です。次に合ノ沢層から従来報告されている腕足類と比べてみました。ところが、これまで知られているものより明らかに大きいのです。日本各地から知られている代表的な腕足類とも比べてみましたが、一致するものはありません。貴重な化石ではないかと思われました。

が、私は腕足類の専門家ではないため詳しくは分かりませんでした。

そこで腕足類の専門家の先生に相談することになりました。知り合いの研究者を通じて、新潟大学名誉教授の田沢純一先生にお願いすることにになりました。化石を見ていただいた結果、キルトスピリファー属というデボン紀

後期に繁栄した腕足類の仲間、合ノ沢層産の腕足類としては保存状態の良い化石だから詳しく種類を調べる必要があるということになりました。それからさらに田沢先生が世界各地の腕足類と比較した結果、該当する種類は見つかりませんでした。該当する種類が見つからないということは新種の可能性があるということです。

さて、正式に新種とされるためには国際動物命名規約という国際ルールを守って発表する必要があります。細かい部分は省きますが、博物館にその化石を保管し、どうしてその化石が新種だと考えられるのかを書いた論文を出版しなければなりません。そうした手続きを踏むことで福島県民に限らず世界中の人々、さらに言えば後世の人々もその種類を調べることができるのです。そのため県立博物館に化石を登録し、現在は田沢先生が中心となって論文の出版へ向け準備中です。

合ノ沢層からは既に世界の他の場所で報告されていた種類しか発見されおらず、新種の化石が見つかったことはありません。もし新種だということになれば福島県最古の新種化石と呼ばれるいいのかもしれない。この化石は7月15日から始まる企画展「ふくしま5億年の自然史」で公開します。3億5000万年以上も前に生きていた動物の化石をぜひご覧ください。

ポイント展

## 齋藤一の肖像写真

平成29年9月16日(土)～24日(日)

昨年、新選組隊士の一人である齋藤一（後の藤田五郎）の鮮明な肖像写真が、御子孫から当館に寄託されました。これを受けて、昨年は秋の会津まつりに合わせて急遽展示公開を決定し、大きな反響を頂きました。その後再公開のご要望を多く頂いたこともあり、今年も会津まつりの開催時期に展示を行います。

今年のポイント展では、肖像写真に加え、齋藤一が会津藩主松平容保から賜った和歌二首も合わせてご覧頂きます。和歌は鶴や早咲きの梅を詠んだおだやかな内容で、今年になって御子孫から当館に寄託されました。

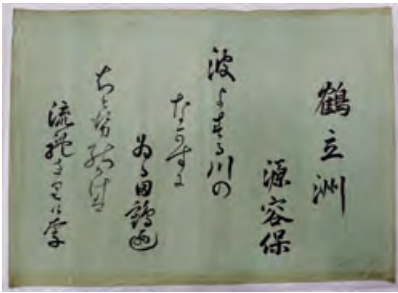
新選組は幕末の京都において会津藩の庇護下で活動しましたが、戊辰戦争後も特に会

津との関わりを強く保ったのが齋藤一です。彼は、いつ、どのようなタイミングで容保から和歌を賜ったのでしょうか。詳細は伝わっていませんが、想像がふくらみます。

初公開の松平容保和歌も加わってパワーアップした今年のポイント展。デリケートな写真資料保護のため公開期間は短いです。ぜひこの機会にご覧ください。



齋藤一肖像写真



松平容保和歌「鶴立洲」

秋の企画展予告

## 発掘ふくしま4

—土中の声に耳をすませば—

平成29年10月7日(土)

～11月26日(日)

今から約4000年前、ふくしまが列島文化の中心だったことをご存じですか？縄文時代—安達太良山麓を中心に栄えた、謎の「複式炉文化」に光が差し始めました。

今から約3000年前の新地町三貫地貝塚に住んでいた縄文人。その骨から世界で初めて核DNAの抽出に成功しました。はたして、彼のDNAと私たちとの関係は？

今から約1500年前の古墳から出てきた鉄のよろい。「謎の5世紀」のふくしまのようすが徐々に見えてきました。

今から約700年前、須賀川に移り住んだ鎌倉公方足利一族の屋形（稲村御所）の一部に初めて調査のメスが入り

ました。

今から約4000年前、二本松城を居城とした丹羽氏はどんな城づくりをしたのでしょうか？

などなど、ここ10年の発掘調査が明らかにした驚きの事実を紹介する企画展です。私たちが耳をすませば、土の中からにぎやかな祖先の声が聞こえてきます。



三貫地貝塚出土人骨



中島村四穂田古墳出土短甲

企画展

一般大学生500円、高校生以下無料

ふくしま5億年の自然史

7月15日(土)～9月18日(月・祝)

■展示解説会(申込不要、要企画展料金、企画展示室)  
「化石の見た方、教えます」

7月16日(日)、23日(日)、8月6日(日)、

8月13日(日)、9月17日(日)各13時30分～14時30分  
講師 当館学芸員

ワークショップ

申込不要、要企画展料金、企画展示室  
「ふくしま最古の岩石がもたらした」

アンモナイトの名前を当てよう!  
7月30日(日)、8月20日(日)各13時30分～15時  
講師 当館学芸員

■福島地方気象台出前講座(申込不要、無料、講堂)  
「地震と津波について」

8月10日(木) 13時30分～14時30分

講師 気象庁福島地方気象台地震津波防災官  
大和田淳氏

テーマ展

部門展示室  
常設展料金

託されたおもい 奇贈・奇託の名品たち

6月10日(土)～7月17日(月・祝)

ふるさとの考古資料7

【榎葉町歴史資料館】移動展

7月1日(土)～平成30年5月20日(日)

祈りのふくしまー収蔵仏教美術展ー

8月5日(土)～9月18日(月・祝)

檜枝岐村文書の世界

9月23日(土・祝)～12月10日(日)

ポイント展

総合・部門展示室  
常設展料金

収蔵史料にみる戦国の群雄

4月15日(土)～7月16日(日)

いろんなダルマ集まれ!

6月23日(金)～8月30日(水)

会津石譜 7月15日(土)～9月18日(月・祝)

ふくしまの戦争資料 7月15日(土)～8月21日(月)

お日市のお札ー会津・夏の風物詩ー 9月1日(金)～11月22日(水)

戊辰戦争・回顧の足跡 9月2日(土)～10月1日(日)

斎藤一の肖像写真 9月16日(土)～9月24日(日)

講座・実演他

★は要申込

【館長講座】(申込不要、無料、講堂)

「北のはやり歌」

④7月20日(木) ⑤8月17日(木) ⑥9月21日(木)  
各13時30分～14時45分  
講師 館長 赤坂憲雄

【民俗学講座】(申込不要、無料、講堂)

「おもしろ民俗学ゼミナール②」  
7月1日(土) 13時30分～14時30分  
講師 学芸員 大里正樹

【歴史講座】

★「はじめてさんの古文書講座」

②7月15日(土) ③8月19日(土)  
各13時30分～15時  
講師 ②学芸員 高橋充 ③学芸員 栗原祐斗

【史料でよむ戊辰戦争①】(申込不要、無料、実習室)

①～③通しての参加、申込終了、無料、実習室  
9月16日(土) 13時30分～15時  
講師 学芸員 阿部綾子

【考古学講座】

「ハニワ大王の講談スーパードラマ」

④7月16日(日) ⑤8月20日(日) ⑥9月17日(日)  
各11時～13時30分、13時30分～14時  
講師 学芸員 荒木隆 (申込不要、無料、体験学習室)

【パワーアップサロンド考古学】

④7月22日(土) ⑤8月26日(土) ⑥9月24日(日)  
各13時30分～15時

講師 学芸員 荒木隆(申込不要、要飲食料金、レストラン)  
※⑥は会津まつり会場

★「縄文土器を作ろう」

①8月5日(土) ②8月6日(日) 各10時～15時  
講師 学芸員 森幸彦  
(要申込、2回通して参加、20名、300円、実習室)

【美術講座】(申込不要、無料、視聴覚室)

「仏像のキホン」

①8月11日(金) ②8月25日(金) ③9月8日(金)  
各13時30分～15時  
講師 学芸員 塚本麻衣子

【実技講座】

★「会津・三島の編み組み細工」

①7月8日(土) ②7月9日(日)  
①13時～16時 ②9時30分～16時  
講師 伝統技術保持者 渡部ユキ子氏・秦愛子氏  
(要申込、2回通して参加、定員10名、4000円、実習室)

★「唐人和風をつくろう」

7月29日(土) 13時30分～16時  
講師 伝統技術保持者 斎藤誠一氏  
(要申込、親子15組、500円、実習室)

【実演】(申込不要、無料、体験学習室)

「昔語り」

9月30日(土) 13時30分～15時  
講師 語り部 横山幸子氏

【ギャラリートーク】(申込不要、無料、エントランスホール)

「ハニワ大王のさわってギャラリー」  
④7月2日(日) ⑤8月6日(日) ⑥9月3日(日)  
各11時～13時30分、13時30分～14時  
講師 学芸員 荒木隆

【読み聞かせ】(申込不要、無料、体験学習室)

「博物館でも読み聞かせ」  
④7月8日(土) ⑤8月12日(土) ⑥9月9日(土)  
各11時～13時30分、14時～15時30分  
※特別編 7月9日(日) 11時～13時30分  
講師 読み聞かせグループ

【その他】

後援事業「ふくしま星と宇宙の展覧会」

①7月22日(土) ②7月23日(日) 各9時30分～17時  
(申込不要、無料、エントランスホール、講堂)

「子どもミニミニ博物館」

8月11日(金・祝)～8月17日(木)

9時30分～17時(申込不要、無料、体験学習室)

ミュージアムイベント

★は要申込

「夏休み子ども野外映画会」(申込不要、無料、前庭)  
7月17日(月・祝) 19時～21時

「会津磐梯山・市民盆踊り」(申込不要、無料、前庭)  
8月15日(火) 19時～20時30分

★「夏休みナイトミュージアム」  
8月19日(土) 17時30分～18時30分  
(要申込、80名、無料、総合展示室)

「ハワイアン in けんぱく」  
8月26日(土) 13時30分～15時  
(申込不要、無料、エントランスホール)

「会津室内楽団アンサンブル  
Coderanniコンサート」(申込不要、無料、講堂)  
9月18日(月・祝) 13時30分～15時

\*要申込の行事は基本的に開催日の1ヶ月前から募集を開始します(異なる場合もありますのでご確認ください)。電話もしくは受付カウンターでお申込みください。  
\*その他、行事等の詳細につきましては、月行事予定やホームページをご覧ください。

7月～9月の休館日

7月3日(月)・10日(月)・18日(火)・24日(月)・31日(月)

8月7日(月)・28日(月)

9月4日(月)・11日(月)・19日(火)・25日(月)

8月21日(県民の日)、9月18日(敬老の日)は常設展無料

【お問い合わせ先】福島県立博物館  
〒965-0807 会津若松市城東町1-25  
Tel:0242-28-6000 Fax:0242-28-5986  
HP: http://www.general-museum.fks.ed.jp/  
Mail: general-museum@fcs.ed.jp